
創られて変えられた世界（仮）

戒龍斬・銃雷

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

創られて変えられた世界（仮）

【Nコード】

N5020S

【作者名】

戒龍斬・銃雷

【あらすじ】

初投稿作品です、がんばって完成させたいです。

5月6日公開開始

主人公は転生者だ。多くの転生者の中の一人で行く先は神様が作った世界、そこで主人公はどうすごすのか……。） あらすじ、タイトル募集中）

この世界の歴史（設定）（前書き）

設定です。主人公でません、この世界の歴史の段階ですので。

この世界の歴史（設定）

大昔村々が集まり多くの国ができた、その後しばらくは平和であったが統一の動きがどの国でも出始めた、しかしどこも同じくらいの強さでありどこも動こうとしなかったため統一はされないかと思われたが、とある国がある日動き出しとどろく間に勢力を拡大していった、そのとある国の名はレゼン、レゼンはその後統一をはたした。その後国が割れ三つの国に分けられた、その三つの国の名はメレナ帝国、ヴィザイン連邦、そしてリイザイン商国である。メレナ帝国とヴィザイン連邦は戦争していたがある日いたるところで謎の建物ができ、そこから見たことのない生物が出てきた。後に建物は遺跡、生物は魔物と呼ばれるようになった。そしてなぜかいくら倒しても遺跡から出てくる魔物が減らなかった、調査のため比較的魔物が弱い遺跡に三国は合同で軍を送った。調査したところなぜか本があった、その本により遺跡や魔物のことがわかった、そしていろいろな宝物もあった、宝物は遺跡の魔物が強いほどいいのがあるとなぜかあった本でわかったがそれと同時に魔界があるということがわかった。また魔界には魔物を統べる王、魔王がおり侵攻の準備をしていることがわかった。本からの情報によりこのままではまずいと判断した三国は、同盟およびいわゆる冒険者等のための冒険者ギルドを設立、傭兵ギルド等があったがそれらは商人ギルドこと商人組合を除き冒険者ギルドに統一された。なぜ謎の建物、遺跡が突然あらわれたのか？など謎が多く説明されてないところもある、だがこれだけはいえるそれは原因があるからこそ結果があるのだと・・・

この世界の歴史（設定）（後書き）

初めての作品、とりあえず設定投稿、がんばって続けます。

前半プロローグ(前書き)

とりあえず前半完成しましたので、短いですが投稿です

前半プロローグ

「さて、君たちはこれから転生する、もちろん能力付きでだ。行く先が決まっているが生き返れるんだ、しかも能力付きで、文句はないだろう?」

その場にいる数十人程におそらく神であろう者が言った。

「能力の数や行く先の世界の情報がどのくらいわかるかはこれから送る先にいる者しだいだ。さて送る前に少しだけ行く世界のことを特別に教えてやろう。その世界は我々が作り上げた都合のいいフアンタジーな世界、他の世界と違って転生者を送り楽しむだけに作られた世界だ。これ以上は教えん。じゃ、送るからな」

神がそういった後その場にいた全員が消えた。

「前は一人だけだったからなのか楽しみが少なかつたからな、だが世界を変えて数を増やしたからな、楽しみだ。」

神はそういいその場から消えた。

後半プロローグ（前書き）

遅くなりましたが後半です。主人公出て来ますが大きな進行はありません。

先に言っときますが前世の名前は出る予定ありません。

後半プロローグ

「君の担当の神だ、ある程度は聞いているな？ 願い事に入る前に質問あるか？ もつとも答えるとは限らんがな。」

目の前のさつきとは違う神様であるう者がいった。とりあえずこれは夢である可能性もあるが現実の可能性もある、なら現実である場合でいけばいい、夢であったときは笑えばいい。そう思い質問を考えた。

「願い事の数と範囲や条件、それに加え交渉は有りか無しか、そして行く世界について。これで今のところ全部かな、聞いた後増えるかもしれないからね。」

「ふむ、範囲と条件とはなんだ？」

「それは範囲とはたとえば容姿とかのことで、条件はこんな能力はだめだとかかな。」

「そうか、まず範囲だか容姿や性別は願い事に含まれない。次に条件だが、いわれるまでわからんな、数についてだが・・・ふむ、交渉有りかと聞いたな。交渉で決めることにしよう。最後に行く世界についてだが・・・これは教えられること全部転生させたとき頭に入れといてあげよう。さて、質問はもう無いな？」

「いや、魔法があるのかと人間以外にもエルフとかの種族がいるのかを今教えてもらいたい。」

頭に入れてもらえるのは助かるがこれは今教えてもらわないと困る。「魔法はあるし、人間以外の種族もいるぞ。さてもう願い事に入ってもいいかな？」

「交渉ででしたよね、とりあえずいいしますのでそのまま大丈夫であればそのままでもいいんですよね。」

「うむ、その通りだ。では言うがいい。」

「まずは容姿、性別ですが・・・で能力は・・・こんな感じでどうですか？」

「ふむ、能力が許容ライン超えてるぞ、交渉だな。」
「JJJは……」

交渉も終わりいよいよ転生にはいる時が来た。願い事も求めてたものはだいたいかなえられた。問題は転生の仕方だ、質問しとけばよかった……。

「さて、転生に入るが……ふむ方法はつまらんかもしれんが起きたら転生してたという感じでいくことにしたからな、寝てもらっぞ。」
「
神様がそういったあと眠くなってきた。そのとき思ったことは落っこちるとかじゃなくてよかったということだった……。」

後半プロローグ（後書き）

能力等は次話で、ちなみに主人公設定の投稿ではないです。とりあえず10日以内投稿の目標を立ててみる。

第一話 転生してから・・・(前書き)

物語としては進んでいません、自己紹介のようなものです。

第一話 転生してから・・・

転生してから2年がたった。この2年誰にも会ってない、その理由は願ったことに関係する。ちょうど暇なので現状確認もかねて願ったこと思い出す。まず能力、これはいろいろな洋服と料理を出す能力、洋服はしまえるし食べ終わった料理の皿は消せる、衣食住の衣食にこれで困らないことになった。これと軍隊を出す能力、これが願いの許容範囲超させた原因。絞って超えなくさせたけどそれでも充分だと思ってる。13人の指揮官にそれぞれに最大2個中隊までつけられまた指揮官以外の一般兵はその世界の兵士の平均的な能力だ、ちなみに精鋭部隊にすることもできるが1個小隊までになる。精鋭部隊にすると一般兵の能力がその世界の精鋭部隊の平均になる。また指揮官だがこの世界の最高峰と互角に戦えるくらいだ（ちなみにこの世界のといっているがその中に転生者は含まれていない）。この能力名は決めてある、レギオンそれがつけた能力名、意味は軍団だからちょうどいいとこの名に決めた。この能力には他にもいろいろあるが他の能力とともに措いておくことにする。

最後になるが能力ではなくこの2年誰にもあつてない理由に関するもの、それは城だ、これで衣食住全部あるということになった。なぜ関係するのかというところ、城、山奥にあるのだ、しかも近くに人が住む場所も無いそのうえ周辺の魔物が強い、城周辺には来れないから安全（神様がそうしてくれただんである）だが、余程強い者じゃないと来れないこの場所に人が来る訳も無く2年間会えなかったわけだ。

新たな名前はカイザスと決めた、まだ会ってないが誰かに会った時に普通に言えるように練習はしている。いつになったら会えるのであるうと思っただけはいるが旅には出ようとは思っていない。まあそのうち会えるだろうと待ち続けている。

第一話 転生してから・・・（後書き）

判明してないことは一部を除き作中でそのうち明かします。
主人公は憑依に近い転生です、なので赤ん坊時代は無く親もいません。
もちろん憑依では無いので別の人物の記憶なんてありません、
憑依だからといって記憶あるわけでもないみたいですが・・・も
ちろん神様からの知識は別ですが・・・。

第二話 きりがいいよつでわるい終わり方(前書き)

うん・・・悩みましたがこんな感じで行くことにしました。

第二話 きりがいいように終わる方

一ヶ月ぐらいがたった。

後どのぐらい待てば来るのだろうか、城の場所が悪いせいかな誰も来ない。城に来る道は一つしかなく（指揮官に調べさせた）そこを通らずに来るとすれば空から来るしかない。このごろ旅に出ないと誰にも会えないんじゃないかと思ってきた。そういえば城に名前つけたほうがいいかなあ〜と思いながら来る道を見てたとき、ついに人が来た。数人いるぐらいしかわからないがとりあえず迎いにいくことにした、念のため指揮官全員精鋭部隊で出し一部隊同行させておく。

今城門が音を立てながらゆっくりと開いている。どんな風に迎えるか思いつく前に開いてしまった。

「ようこそ我が城へ、君たちが初めてのお客さんだよ。」
勢いに任せていってしまった。なにやら話し合っている、人がいるとは思わなかったであろう。

「ここはダン・・・遺跡じゃないのですか？」
どうやら安心できそうだが、そして転生者の集まりの可能性が高い。

「違いますよ、私の城です名前はまだ付けてませんが・・・よくぞ来ました歓迎します。」

転生者ですか？なんて聞かない、へたに聞いて連れて行こうとされたりしたらいやだからね。

「それじゃついてきてください案内しますので。」
口調が変な気がするが気にしない。

一通り案内が終わった後自己紹介は後でもらうことと少ししたら食堂に来るようにということをいって別れた。人数は九人だということがわかった食事のために別れ着替えに行った後食堂で能力発動、歓迎の準備はできた。来る少しの間自分の自己紹介を考えていた。

第二話 きりがいいように終わる（後書き）

はい、他のキャラの名前考え付きませんでした。また進んでないです
ね、ごめんなさい。

第三話 この小説はどこへ行くのだらう？（前書き）

久しぶりに更新です。分量は頑張ってみました。が相変わらず少ないです・・・。

第三話 この小説はどこへ行くのだろう？

自己紹介はその場ののりで行くこととして食事の準備をすることとした、といってもおくだけだかと思うだろうがおく料理も考えないといけないのだ。困った・・・こちらの料理なんて知らないから確実にばれる、厄介なことになりはしないだろうけど転生者としてではなく話しをしたかった。

ついに来た、料理はとりあえず数をそろえた量もある。とりあえず自己紹介等しなくては。

「よくぞ来ました。私の名前はカイザスあなたたちを歓迎します。」
ふむばつちりの自己紹介。ん？話し合ってる。

「カイザスさん。あなたは転生者ですね。第一陣の。自分たちは第二陣の転生者です。」

第二陣？気になるけど・・・
「第二陣とかいろいろ気になりますますがまずは食事にしましょう。」
お腹がすいてしょうがないのだ・・・それにあとで聞けばいいだけだし・・・

食事が終わったので早速聞くことにした。

「早速だけど第二陣で？」

第一陣の前に第二陣だと考えて、というよりさっとでたのが第二陣だから出した。

「第二陣とは第一陣の後に転生した者たちのことです。第一陣と第二陣の違いは順番だけでなく能力等にも現れてます。第二陣より第一陣のほうが能力をもらえていて、それとは別に神様がつけてたのがあります。これは神様が自由に後からつけたり無くしたりできるということです。」

なんと・・・でも能力以外ももらってるからもしかして・・・

「もしかしてそれは属性がつくこともあるということ・・・？」

「はい、そうです。それとこの話でわかるように教えてもらってる情報も違います。」

「となると後で情報交換しないとね・・・。」

「ええ、でもその前に話しておくことがあります。それは自分たちはここに行くようにと神様に言われて来たのです。自分たちは気づいたとき近くにおいて同じ場所に行くように言われていたのでいっしょにきたのです。」

・・・なんでだろう？むう~~~~・・・

「なにか理由とか聞いてません？」

「理由は特に聞いてませんがある程度転生者の集団ができて分けられたからそれぞれに送るとは聞いてます。」

外のことわからないけど聞く限りほとんどがいくつかある集団に属してるということだね・・・？

「・・・わかりました。とりあえずはまた明日話しましょう。部屋はさっきのはお客さんようなので別の部屋に変えますね、一人一部屋でなかなか広いのです。それじゃ荷物取りにさっきの部屋へ行きましょう。」

この城はものすごく広い。無駄に広い。

「ありがとうございます。」

「じゃ、いきましようか。」

個部屋へ案内した後はちょっと話してすぐ寝た。

第三話 この小説はどこへ行くのだろうか？（後書き）

なんか自分で書いててなんですけど全員分の名前用意できるかな・・・

（汗）

新たに発覚した神様補正ですが主人公の城に魔物が来ないのがあてはまります。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5020s/>

創られて変えられた世界（仮）

2011年10月8日23時55分発行